

「敬老健康パス制度（素案）」を撤回し、現行の敬老優待乗車証（敬老パス）の
枠組みを生かした制度改善を求める陳情

令和6年3月22日 受理
令和6年4月2日 付託 厚生委員会

提出者
札幌市中央区
「今日より明日へ」
代表者 代表 宮田 和保

(要 旨)

1. 現行の「敬老優待乗車証（敬老パス）」を存続させ、持続可能な制度とするための必要な見直しを早急に行ってください。
2. 「敬老健康パス（素案）」は撤回し、市民が理解と納得のできる「健康寿命延伸に向けた施策」を検討し、提起してください。

(理 由)

1. 現行の「敬老パス」制度は簡潔明瞭な制度で長い間、市民からも十分理解され受け入れられてきた仕組みです。勿論、時代や状況の変化も大きく、見直しは当然必要ですが、制度改善に当たっては、定着した枠組みを生かし、持続可能な制度とする方向で検討すべきと考えます。早急に行ってください。
2. しかし、今回、市から提案されている「敬老健康パス（素案）」は様々、考えられる「健康」の概念のいくつかを取り出し、ポイント化し、その範囲でパスを利用させる、というあまりにも突飛かつ煩雑なものです。各区で行われた「意見交換会」でも当然のことながら困惑や反対の声が圧倒的であり、理解された状況に全くありません。

重要な課題である「健康寿命延伸」については「敬老パス」と切り離れた形で、市民が理解と納得のできる施策を検討し、提起してください。

また、市は新制度に対する疑問、反対の声が圧倒的な中で、この制度変更を撤回するのではなく、「経過措置」を講ずる形での新制度への移行を打ち出しています。「新制度」そのものの是非が問われている段階で、新制度への移行を前提とした「経過的措置」は倒錯した議論の立て方であると言わざるを得ません。

現制度は簡潔で透明度が高く、市民からも十分理解され受け入れられてきた仕組みです。いたずらな混乱を招くことなく、高齢化社会に対応した札幌市のトータルな公共交通システムのあり方を含めて、現行制度の良さを十分に生かした改善策を落ち着いて検討していくことが何より重要です。